

2008年10月5日 聖霊降臨後第21主日

創世記 50:15-21 ローマの信徒への手紙 14:1-18 マタイによる福音書 18:21-35

★今週の聖句

「七回どころか七の七十倍までも赦しなさい」

マタイによる福音書 18:22

★ねらい

- ①ユダヤ教のラビたちは三回までは赦すように教えていた。ペトロは、思い切って七回までですかと言う。ところが主は七の70倍と答えられる。七が完全数であることを考えると、これは際限なく赦せということにほかならない。

★説教作成のヒント

1. ペトロの問いへの答えと、仲間を赦さなかった家来のたとえは、一見連続しないように見えるが、何が問題になっているかを注意する。

★豆知識

一万タラント → ほぼ 6000 デナリオン相当。つまり 1 万タラントとは、6 千万デナリオンとなり、これは普通労働者の賃金の 16 万年分に当たる。

百デナリオン → 労働者の賃金の訳 100 日分。

★説教

こんなお話があります。生まれが良く、才能があり、家庭に恵まれ、人生で成功を収め、幸せだった男がいました。ところがこの男にはたった1つだけ欠点がありました。自分のしたことにうぬぼれ、ことあるごとに自分の幸せを他人にひけらかすのでした。そこで神さまは、彼が自分のしたことをすべて忘れるようにされました。彼は自分のしたことをひけらかすことをしなくなり、人にしてあげたことをみんな忘れ、小さな幸せにとどまろうとしなくなり、常に前進するようになりました。その結果、みんなから好かれ、慕われ、人々から尊敬されるようになりました。そして、彼が亡くなる日、神さまは彼が今までしてきたことすべてを思い出させました。彼は自分がたくさんの人を幸せにできたことを知り、すべてを感謝しながら亡くなりました。たくさんの方に恵まれ、才能があっても、それを他の人のために使うことができないなら、この地上のどこにもその人の幸せはないのかも知れません。しかし、神さまから恵まれたものでたくさんの人を幸せにできたなら、きっとその人は幸せだと思います。

★分級への展開

さんびしよう

*讚美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

88番

改訂版40番

やってみよ

一日一体いくらあれば生活できるか計算してみよう！

一日の生活費（食費、教育費、光熱費、住居費、等）をみんなで考えてみよう。

自分の住む町の最低賃金を調べておき、自分たちで計算した金額と比べ、また前の二つの金額からイメージする一デナリオンを実感してみよう。

はなそう

「ゆるすこと」について、みんなで話してみよう。

「自分がしたことは赦してほしいと願うのに、他人のしたことは赦せない」という経験はありますか？

初めにひとりで考えてみて、その後みんなで話してみよう。

18章 23-34節の天の国のたとえを読んだ後、35節をゆっくり読んでみましょう。

あなたは、どんなことを感じましたか？

また、イエスさまは、今日、この御言葉を通して、あなたにどんなことを語っておられると感じましたか？

2008年10月12日 聖霊降臨後第22主日

イザヤ 55:6-9 フィリピの信徒への手紙 1:12-30 マタイによる福音書 20:1-16

★今週の聖句

「後にいる者が先になり、先にいる者が後になる」

マタイによる福音書 20:16

★ねらい

- ①天の国の報酬は、人の働きの量や質によるのではない。
- ②天の国のために働くのは、賃金を得るための手段というだけではない。働きに参加できること自体が喜びであり報酬なのである。
- ③ここで得られた賃金が自分の能力によるものではなく、主人の賜物であることを伝える

★説教作成のヒント

1. 先の者が後に、後のものが先になるという言葉に前後を画された天の国のたとえであるが、異なったテーマ（ねらいを参照）を見出してもよい。
2. 主人は夜明けに雇った人にははっきり賃金の約束をしたが、後の者には「ふさわしい賃金を払ってやる」といっただけであることに注目。

★説教

毎年、マラソン大会で1位と2位を争っていた2人がいました。ター君は今年こそトシ君に負けまいと練習をしました。当日です「よーい、ドン」みんないっせいに走り出しました。予想どおり今年もトシ君とター君が2人でトップを争いました。最初はター君がリードしましたが、2周3周とまわるうちに追いつかれ、後ろを振り返るとすぐそこにトシ君がせまっていました。あと一周、トシ君が急にスピードを上げてきました。ター君も負けずと最後の力をふりしぼりました。そして、2人はそのまま並んでゴールしました。「おめでとう、2人とも一等賞よ」倒れるようにゴールしたター君の耳に先生の声がひびきました。「同時か」とすると突然、トシ君が「先生、ター君の方がぼくより早くテープを切ったよ」と言いました。ター君はびっくりして「トシ君はすごいな」と思いました。ター君は一等賞をもらうより、来年もトシ君と走れたらいいなと思いました。人を大目に見ることができたらそれはすばらしいことです。その時には損でもいつか神さまがそれを穴埋めしてくださいませ。

★分級への展開

さんびしよう

*讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

- 1 番
- 改訂版 8 番

やってみよ

- 労働者になろう（「はなそう」につなげるため）

牧師先生に頼んで教会のお仕事をみんなでします（掃除などの軽作業）。

その際、くじ引きで働く時間を決めておきます。

そして、みんなの作業が終了したら均等に分けたおやつを牧師先生からもらいましょう。

おやつを食べながら「はなそう」に入ります。

はなそう

- 今日のたとえ話（20 章 1-16 節）を読んで、あなたはどんなことを感じましたか？正直な気持ちで話してみてください。
- もし、あなたが最初に雇われた人だったら、どう思ったか考えてみましょう。
- もし、あなたが最後に雇われた人だったら、どう思ったか考えてみましょう。
- 神さまの視点から想像したら、このことはどう見えるのか考えてみましょう。
- イエスさまは、天の国はどんなところだとおっしゃっているのでしょうか。みんなで話してみましょう。

2008年10月19日 聖霊降臨後第23主日

イザヤ 5:1-7 フィリピの信徒への手紙 2:12-18 マタイによる福音書 21:33-44

★今週の聖句

「家を建てる者の捨てた石、これが隅の親石となった」

マタイによる福音書 21:42

★ねらい

- ①イエスさまの出来事は旧約の実現であり、その死と復活が新しいイスラエルの土台となる。それは人の思いを越えた神の不思議であり、これこそが喜びの出来事であることを伝える。

★説教作成のヒント

1. ここに語られたたとえば、イスラエルの歴史を生きた人々にとっては比喩的にだれもが理解することができた。ぶどう園の主人は神であり、ぶどう園はイスラエル、農夫たちはイスラエルの指導者たちである。主人が遣わした僕たちは、預言者たちを示している。二つのグループの僕たちが二度にわたって遣わされたのは、捕囚前と後の預言者たちである。旧約聖書には、石で撃ち殺された預言者はヨヤダの子ゼカルヤだけである（歴代下 24:20）が、ほかにも名の知れない人々がいただろうし、全体的に言えば石で撃ち殺すも同然な扱いをしたと言ってよい。
2. 「ぶどう園の主人が帰ってきたら、この農夫たちをどうするだろうか。」という問いは、祭司長、長老が自分たちのことを指して言われていることを理解していても、主人は農夫たちを悪人として殺し、ほかの農夫たちに貸すだろうと答えざるを得ない。それは自分たちに対する審判である。

★豆知識

当時の裕福な地主は大きな都市や都会に住むことが多かったようなので、ここでこの主人は自分の家に戻ったのであろう。

★説教

江戸・明治・大正を生きた方で禾山（かさん）禅師というお坊さんがいます。托鉢をしていた時のことです。坂道で荷車を押し難儀している人がいました。弟子の1人がそれを見て後ろから荷車を押ししました。坂の上まで押し上げ戻ってくると、禾山禅師はその場でその弟子を破門しました。弟子は赦しを請いましたが、禾山禅師は頑として聞き入れませんでした。最後には弟子は寺に残ることを赦されましたが教を請うことは赦されず、そのまま一生を終えました。後に、禾山禅師はその時のことをこう言っています「この弟子の行為は良いことである。だから自分は良いことをした。だから自分は良い人間だと思い、思い上がってしまう。そして、そのうち、良いことをしない人間を批判し始める。しかし、自分は良い人間だと思っているから、人を傷つけても自分は正しいことをしていると思っている。人の心を傷つけて平気でいて、そのまま一生を終えてしまう。だから、破門した」自分のした良いことにこだわらず、人を傷つける自分の姿が見えているなら、きっとその人は他の人に優しい人になれるでしょう。みなさんもイエス様の良いお弟子さんになってください。

★分級への展開

さんびしよう

*讚美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

35番

改訂版124番

やってみよ

ぶどうジュースをつくってみよう

安いぶどうが手に入らなければ「ぶどう」ジュースは少量で、他の果物でもよい。

房からぶどうの粒をとり、それを清潔な綿の手ぬぐい、フキンなどに入れ、ひたすら絞る！

そのままでは飲みにくいと思うので炭酸水や水、シロップなどで味をととのえて飲む。

※子どもたちにワインの造り方を写真付で説明などするとよい。

はなそう

祭司長たちや、ファリサイ派の人たちが恐れていたこととは、どんなことだったのでしょうか？

なぜ、イエスを捕らえようとしていたのでしょうか？考えてみましょう。

人間が守ろうとしがちなもの（権力、財産、など・・・）を守ることも、神さまを信じることもの方が大切だということを、イエスさまはくりかえし人々に教えられました。この世と、天の国の価値観は、どういう違いがあるのでしょうか？考えてみましょう。

2008年10月26日 宗教改革主日

エレミヤ 31:31-34 ローマの信徒への手紙 3:19-28 ヨハネによる福音書 8:31-36

★今週の聖句

「真理はあなたたちを自由にする。」

ヨハネによる福音書 8:32

★ねらい

- ①ここで言われている真理が、どこでも通用する一般的な真理ということではなく、神の真実さを意味していることを伝える。「わたしは真理である」(ヨハネ 14:6)
- ②神さまから与えられた信仰は、私たちが自由に喜んで、報いを考えずに、隣人のために愛を働かせるように私たちが新たにしてください。

★説教作成のヒント

1. 宗教改革の記念は10月31日であるが、その前の主日に移して覚えられる。改革の三大文書の一つとされる『キリスト者の自由』に関連して福音書の日課、あるいは宗教改革の鍵となる神の義を示す使徒書を基とすることもできる。

★説教

ある男が夢の中で「お前は橋の上で、宝物を見つけるだろう」という言葉を聞きました。男はいそいで橋に行き、あっちに行きこっちに行き橋をていねいに調べました。しかし、どこをさがしても宝物は見つかりません。そこに別の人が来て「あなたは何をそんなに一生懸命さがしているのですか」と尋ねました。男は夢の話をし「やはりそれはただの夢だった」と言いました。すると、その人は「わたしも変な夢を見ました」と言って「ある村の入り口の大きな木の下に宝物が埋めてある夢」の話をしました。男はいそいで村に帰り、村の入り口にある大きな木の下を掘り宝物を手に入れました。イエス様の十字架は宝物です。しかし、イエス様の十字架をどんなにていねいに調べても宝物はそこには見つかりません。あの話しのようにどこに宝物が隠されているのかそれを教えてくれる人に出会わないと宝物は手に入りません。マルチン・ルターはずいぶん長い間、1人でその宝物をさがしましたが、見つかることができませんでした。しかし、十字架の上で聖霊を通してそれを教えてもらいました。みなさんもいつかイエス様という宝物が見つかるとうれしいですね。

★分級への展開

さんびしよう

*讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

36番

改訂版120番

やってみよ

ルターさんを知ろう！

- ・ルターの紙芝居や簡単な本があればそれを読む。
- ・教会讃美歌の中からルターの作った讃美歌を探す。

はなそう

イエスさまの十字架によって、私たちは赦され、罪から解放されました。

赦された者の人生と、罪に縛られ続ける者の人生は、どういうところが違うと思いますか？